

大阪府立北摂つばさ高等学校 学校運営協議会 令和7年度第3回 会議録

日 程：令和8年2月6日（金） 15時30分～17時20分（協議会）

場 所：本校校長室

委員出席者（五十音順、敬称略）

長田佳久委員、坂ロー美委員、田中宏和委員、増田紀子委員

事務局出席者

川口（校長）、下田（事務長）、深田（教頭）、佐藤（首席）、渡（首席）

<協議事項> （○委員 ●事務局）

1. 首席・分掌・学年からの総括報告について

<授業改善・生徒支援>

- ポジティブ行動支援（PBS）や授業のユニバーサルデザイン化（UDL）を軸に授業改善を実施。第1回授業見学ではPBSのポイントをまとめたシートを配付し、共有化。第2回授業見学ではUDL視点を取り入れたセルフチェックシートを導入。
- 生徒数減少に伴う教員数の減少がある中で、持続可能な支援体制の構築することが次年度の課題である。
- PBSやUDLが中学校教育と連続性があり、進学後の高校で中学校と同じ取り組みをして支えられていることに感謝している。

<生徒指導、生徒会、国際交流、行事>

- 今年度より遅刻過多の生徒に早朝登校指導を実施した。規定の早朝登校回数に達していない生徒を対象にテスト前学習会を実施したが、参加率が低く、次年度の課題である。
- 交通安全指導では生徒会を中心に地域イベントや警察と連携し活動した。
- 国際交流は姉妹校交流事業として、タイへの短期留学を実施した。また、韓国のプンム高校とオンライン交流を行った。次年度も継続的に国際交流を行う予定。
- ダンス部が冬の全国大会で審査員特別賞を獲得した。

<進路指導>

- 3年生の現時点での進路決定率は約90%。就職希望者は1次試験で20名が合格し、進路変更で就職希望の生徒に対処継続中。
- 今年度より企業来校予約フォームを作り、来校を整理し対応できるようにしている。
- 放課後に学習会を行い一定数の生徒が参加している。その影響もあり外部模試受験者が

昨年度は0人であったが今年20人へ増加した。

#### <保健>

- 水害を想定した垂直避難を実施。
- 校内美化の一環としてトイレ巡視と美化ポスターを刷新した。

#### <企画>

- Instagramの更新を強化し、前年比200%以上の更新を行った。1月の学校説明会では申込数が大幅に増加した。中学校訪問は11月の秋実施から、夏休み中に変更し、学校説明会への周知時期を早めた。

#### <学年・共生推進教室>

- 1年生は夏休み以降に遅刻欠席が増加した。遅刻指導の取組みとしてバーコードリーダーを活用したポイント制度を実施し、ポイント数に応じて放課後の学年行事への参加権を与える取組みを行い、登校意欲を高める指導をした。
- 2年生は授業間遅刻者への個別指導を強化した。特定の生徒に問題行動が多かったが、学年生徒指導主担を中心に粘り強く指導した。また、廊下巡回等で生徒との接点を増やしコミュニケーションを積極的に図った。
- 3年生は1年間通して、レッツ勉強デーを2年次から引き続き継続し、提出物や課題作成の支援を行った。2年次より対象者が減少した。遅刻生徒数が大幅に増加し、指導方法について課題が残った。
- 共生推進教室生徒は全員進路が決定している。

## 2. 学校教育自己診断アンケートについて

- 今年度の変更点の説明
  - ・ 生徒について、「第2次大阪府教育振興基本計画 前期事業計画に基づく意識調査」の7項目を追加し、同時に実施
  - ・ 回答の選択肢から「判断できない」を削除し4択に変更。  
(なお、生徒の一部設問において、修正ミスで5択のままとなっている)
- 今年度の概要
  - ・ 保護者の回収率が低く、次年度は連絡ツールを使って改善をめざす。
  - ・ 「判断できない」の選択肢を除いたため、肯定率は全体的に微減。
  - ・ 授業のICT活用については定着が見られる。
  - ・ 「授業が分かりやすい」という質問に関して保護者と生徒の回答に約30%の乖離あり。
  - ・ 英検や情報関連の資格等の取得への意識が向上。

### 3. 令和7年度 学校評価（案）について

#### ●主な課題について

- ・教員と生徒との関係性に係る項目について「先生が話を聞いてくれる」80%から79%に微減。これについては教員の物理的時間不足も影響している可能性があると考える。
- ・「学校が楽しい」76%。生徒の自己肯定感の育成までつながっていないところが課題。行事や部活動も含め、学校に行くのが楽しいという環境を作っていくことが必要。
- ・遅刻者については、明らかに増加の傾向が見られ、現在の遅刻指導の方法について見直す必要がある。（遅刻してもいいんだという意識を持たせてしまった？）
- ・人権事象・いじめ対応に関して即時に対応する必要がある事象があった。各学年迅速に動いて学年集会を開いて指導した。本事象をきっかけにしっかりと学べる機会となり、今後ともこの部分は引き締めて指導していきたい。

### 4. 令和8年度学校経営計画 中期的目標（案）について

#### ●主な変更点について

- ・めざす学校像と中期的目標の体系を整理し文言を統一した。
- ・今後は先行きの見えない社会の中で「将来を生き抜く力」も必要と考え、追加。
- ・卒業率の目標は中期的目標の中での位置を変更し、生徒支援体制の関連項目へ移動。今後の生徒数減少の中で中退防止は最重要指標であり、多様な生徒へ対応として外部人材であるSSWの時間確保などを強化していきたい。

○地域ボランティアの活動が以前より縮小傾向に見えるため、学校としての位置づけを強化してはどうか。

●昔は地域とのつながりを知っていた先生が多くいたが、そのつながりや繋ぎが上手く行われていなかった。そのため、今の活動が分掌やコースなどで決まったものとなっていない、一部の先生任せに良くも悪くもなっている。今後は一教員が個人のネットワークで行っていくのではなく、しっかりと形を作って、活動計画や年間計画に盛り込んでいきたい。

○高校の部活動の外部委託などはどうなっているのか。

●高校でも部活動指導員の制度があり、本校でも一部部活動で導入している。部活動のペアリング校などもある。本校の一部部活動では人数が少ないため、他校と合同チームを組んで取り組んでいる部活動もある。

○府教委からの外部人材に関するサポートとはどういうものがあるのか。

●主にSCとSSWになる。今年度からはSSWの制度が変更になったため、本校に派遣されるSSWの時間数が減った。そのため学校教員が生徒の居住地の福祉とつなぐなど行

っている。毎年、教員の対応が手厚くなってきているものの、次年度はSSWの回数を多くしていきたい。

- SSWの回数が増えることで改善が見込めるのか。
- 中学校でもSSWを市が配置してくれており、家庭の状況を把握したうえで様々な関係機関につないでくれるセーフティネットで、子どもたちを救ってくれる。高校で少ないというのは驚いている。
- SSWの制度が変更になったため、来年度に向けて拠点校への申請を行っている。  
また、専門家に授業を見てもらい生徒の背景にあるものを把握し、教員の対応力などを見てもらえる点でもSSWはとても大事だと考えている。

○地域交流では、地元の小中高生どうして交流してほしいと思っている。そのため、北摂つばさに相談させてもらっていたりしているので、今後も持続継続していきたい。高校生が地域行事に入ってくると、活力が違うので今後も地域活動に協力してほしい。

○いじめの対応については、校内で明らかにして生徒に発信する姿勢が素晴らしい。

●法律に則りしっかりと対応している。兆候があった際に校内で情報を共有し、組織的に対応している。本校以外も同様にいじめの対応をしている。

※令和8年度学校経営計画及び学校評価（案）における

「めざす学校像」及び「中期的目標」についてご承認いただいた。

〈その他、校長が必要と認める事項について〉

特になし

〈授業その他の教育活動に係る保護者からの調査審議に関する事項〉

特になし

〈閉会〉

校長謝辞